

# 腐敗の源泉

盛田 常夫

ソロス財団が EU 加盟を控えた諸国の腐敗の現状をレポートしている (Open Society Institute, *Monitoring the EU Accession Process: Corruption and Anti-corruption Policy*, 2002)。この報告の総合評価によれば、ほんの一部の国を除き、腐敗現象は改善されていないという。いわば金融格付けのようにランキングすると、ハンガリーの腐敗度は「stable」だが、チェコとかロシアは「deteriorating」とされている。体制転換が始まってもう 10 年以上も経たが、腐敗現象は改たまるどころか、さらに悪化しているという。

腐敗の度合いは社会の文明度と富の大きさに比例するが、例外的に文明度高いチェコの腐敗度が高いことにはもちろん理由があるし、文明度の低いロシアの腐敗が想像を超える水準にあるのは巨額のエネルギー資源という富を抱えているからである。

## 「社会的公正」観念の欠如

EU の規制は贈収賄、インサイダー取引、入札制度等々、不正取引や政府事業への民間参入にたいして、きちんとした法的規則に則ることを強制するものだ。すべての体制転換諸国にはほんの少し前まで、そのような行為を違法とする法律そのものが存在しなかったし、その必要がなかった。しかし、文明社会への移行には、「社会的公正」を基準とした社会的規範を確立していかなければならない。とくに EU 加盟を控えている諸国は、そのことが条件になっている。

しかし、良く考えると不思議なことだ。社会主義というのは社会的公正を標榜する倫理的なイデオロギーではなかったのだろうか。そのような理想を掲げる社会で、社会的公正から外れるような社会行為が容認されていたというのは、おかしくはないか。そこで教育を受け、育った人々が不公正な行為を平気でやるというのは、どういうことだろうか。そもそも、ユーゴスラビアなどは自らを「自主管理社会主義」と称し、国家的なソ連型社会主義とは一線を画した社会を建設していると自負していたのではないか。ソ連と違う、自主的な共同体の理想郷を目指したのではないか。

しかし、世の中、名目（見かけ）と実体（中身）は乖離しているのがふつう。社会主義イデオロギーは社会的公正を掲げる倫理的な思想であるが、実際の社会主義社会はきわめて俗物の世界だったと理解すると、全体が良くわかる。ハンガリー社会であれソ連社会であれ、何時の間にか、コネによる人間関係で社会の網が出来上がってしまった。社会を指導する「賢者」として、共産党の指導者は絶対的な権威と生活条件を保証された。権威の威光は当該個人のみならず、家族や親類一同に及ぶ。指導的な共産党員の子弟は能力関係なく、大学進学の面倒や就職の面倒を見てもらえた。何とも封建的な世界だ。

社会の権威の頂点は共産党であり、警察や検察も含めて、すべての国家機構は共産党の

従属的機関であった。したがって、共産党の幹部を批判することも、政府の政策を批判することもタブーだったし、共産党幹部の私腹を肥やす行動を警察や検察が摘発することはなかった。そもそも現存した社会主義社会の規範として、そのような行為が犯罪として認識されていなかった。

このような社会で育って来た人々が、体制転換において、国家資産の略奪に奔走した。その行動に何の不思議もない。「ハンガリーの億万長者百名」に名を連ねているマーティ・ラースローはハンガリー社会主義労働者党(ハンガリーの共産党)の財政担当者だったし、ナジ・イムレは共産党下部の青年組織のブダペスト支部書記長だった。党資産や国家資産の所在が明らかになる前に、資産の所有を移す試みが行われた。所在が明らかになった場合でも、厳格な市場評価がおこなわれる前に、所有を移転する壮大な試みが実行された。

### 歴史的に例を見ない民営化

1990年代の体制転換諸国で実行された国営企業の民営化は、その規模の観点からも実行期間の観点からも歴史上、例を見ない壮大な社会的「革命」であった。その実体は国家資産と共産党資産の「再分配」である。誰が漁夫の利を占めたか、そこにこの転換期の腐敗の本質がある。

体制転換の初期にはどさくさに紛れて、党や国家の資産を私物化することができた。しかし、大きな資産は目立つので民営化の形式をとることが必要になった。今現在、新興実業家として成功している人々の多くは、この初期の民営化で資産を安価に獲得して漁夫の利を得た。

とくに大儲けをしたのが、ロシアの億万長者である。モスクワに宮殿を構えるロシアの長者番付第一位のホドルコフスキーは、石油会社 Jukos の 45%の株を二束三文の価格で取得することで、30億ドルを超える資産を形成した。ソ連崩壊前は共産党青年組織のモスクワ支部幹部で、1990年代初期には石油・エネルギー省の副大臣だった。その地位とインサイダー情報を利用して、Jukos株を取得した。天然ガス会社 Gazprom の資産は市場価値で 500-700億ドルと見積もられているが、チェルノムイルジン(前首相、ソ連時代の石油・エネルギー大臣)等の Gazprom 経営陣は、企業価値を 2.5億ドルに設定させて、15%の株式を購入した。20億ドルとも 50億ドルとも言われる彼の資産は、このようにして形成された。

とにかく、ロシアの長者番付 10位(ここまでは Forbes 誌のランキングがある)に名を連ねている連中は、すべてエネルギー関連会社の株主である。「ハンガリー億万長者百名」の資産全部(3000億円程度)を合算しても、ホドルコフスキー1人の資産にも届かない。それほど巨大な富がロシアを支配している。その代わり、ロシア社会は日常茶飯化したマフィア抗争と囑託殺人の横行という犠牲を払っている。ソ連崩壊後、モスクワ市内の殺人事件は毎年 1000件を越え、政敵やビジネスの相手を消す囑託殺人は年間で 100件近くある。大きな富には多くの命がかかっている。

### 「徳政令」

腐敗の源泉は民営化による国家資産の横領だけではない。国営銀行の融資機能が徹底して利用された。ハンガリーでは、1990年代に2度行われた不良債権の予算処理で、国営銀行の融資債務の「徳政令」が実行された。これでチャラにされた銀行融資は4000億フォリントを下らない。予算処理を受けなかったポシュタバンクは1行だけで1500Ftの累積損失を記録した。このような不明瞭なお金の流れから、「金融ブローカー」が育った。「ハンガリーの億万長者」の中に訳の分からない「投資家」という連中がたくさん名を連ねている。このような「あぶく銭」で資産を作り、ビジネスを展開してきた連中だ。

2002年11月